

広報 なかがま 6月号



自然の中でノービノビ!!

自然を腹いっぱい!!

町内の各小学校五年生二百三十七人が五月十二日から三日間、大洲市上須戒の大洲少年自然の家で屋外の集団生活を学びました。

これは屋外での集団生活を通して豊かな情操を養うとともに団体行動の中から友情の精神や規律ある生活を学んでもらおうと行われたもので今年で四回目。学校や家庭での集団生活とは違って起床から就寝までの日課をすべて自分の手で進めていく、そこにみんな大きな魅力を感じているようで、A班B班に分かれ、スケジュールを進める七つの係を決めて食事作り、清掃、ゲーム、レクリエーションなどテキパキ行動していました。「キャンプ生活楽しい?」「ウンとっても!!」「何が一番?」「学校から解放されて:」「料理やゲーム」「ノビノビできるんヨ」「そろそろ家が恋しい?」「ゼーゼン、もっといたほうがええけん」

ともあれ、この貴重な体験を今後のいろいろな生活の中に役立ててほしいものだ。

読者登壇

2人にちは

▽：日本人の流れは戦争で負け... 読者登壇

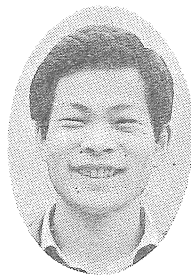
そして金に価値を求めた時代、地位・名誉に価値を求めた時代といえる。でも、もうそれは終わった。

大昔から一貫して続いているものは人間。気持をもつ人間を、一生懸命働いている青年を、働かないではいけない青年を、今の大人はそして社会情勢は抜けがらにしているのでは？(チョッといわずかな?) 大人たちは開発・勉強・仕事などでみにくい競争を憎しみ合っているのではないだろうか。

▽：小さい子どものころは知っている人には「こんにちば」と頭を下げた。大きくなりあの人あはだ、こうなんだと聞かされ、そ

仲間作りに専念

楽しく学ぼう!



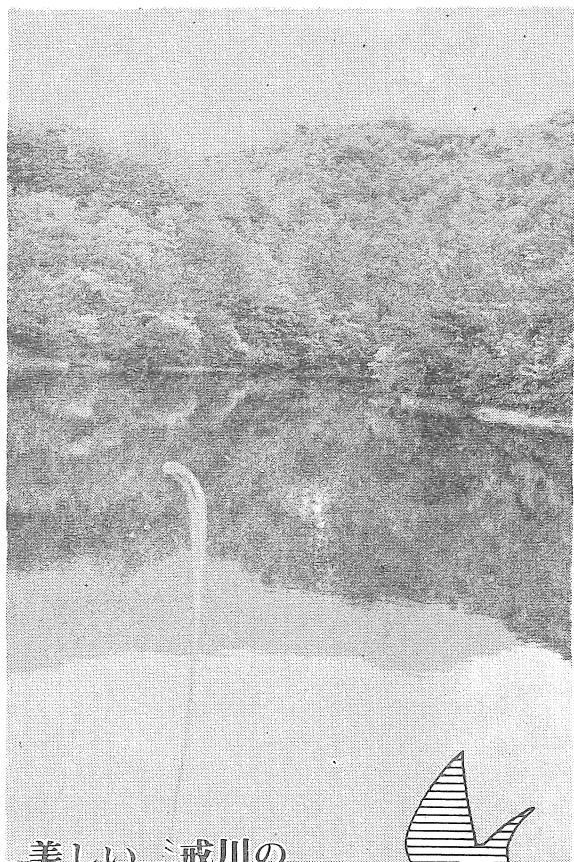
明 関 晃 (23歳) 長浜・商業

んな人なら尊敬できないなあと思えてもみたり、頭を下げてよいのやら悪いのやら、どうして悪いことばかりウワサになるのだろう。みんな悪くしたいと思ってる青年団をやり、仕事を、福祉を、行政を、婦人会をやっているのだろうか。そうならとも生きていけないし、ないほうがよい...

▽：こんな中で、私たち青年団は青年たちだけでもよい、仕事がある、もっと楽しく一日を過ごしたい。顔の知らなかつた町内の人一人一人ふえていく、世間は広いように狭い。しかししゃべり青年団にもむずかしい時期。女の子を出している家はいつも遅くなる心配する。きびしい親はやめなさいとな

る。そうなると団員の減少である。「女がいて男が集まる」と大洲青年の家の白石先生がよくいわれる。晩に出て行ってまでしんどい思いをするのではない。しかし一生の中の若いときにしんどい思いをした青年団、よくやったという青年団、楽しい青年団、私は青年団バカになりたい。同年代でも、いろんな人間同士がみんなできる。これがよいと思う。騒ぎ、話し合い、笑い、そして学ぼう! このような考えにあなたの意見をお聞かせください(連合青年団事務局長松岡憲二宛)

▽：今年のもう一つの目標は青年団のすみか「青年の宿」をつくること。努力してきたい。みんなのためと思い探して考えている。しかしみんなのためながら自分のための成長剤になることを信じ... 最後に、苦勞して育てたOB、青年団にかかわりのあるすべての人に感謝している。将来は地道に働く仕事と家庭づくりをめざしたい。そして町内の大人から頼られることを私も強く強く望んでいる。



美しい戒川のふたまた池、



白滝と戒川の小平地区を結ぶ町道大平線を見て約一キロの地点、松林の木立ちの間を見おろした所に通称「ふたまた池」と呼ばれる池(写真)があります。正式には「池の塔」という名称ですが、形が塔のよう人間の股(また)に似ているところから、このような名前がついたとか。町内には現在、出海に三つ、戒川に二つ、豊茂に二つ、衛生に一つ池があるようですが、ほとんどがかん水用。中で一番大きいこの池もその一つ。現在は下流域の田畑が休耕しているため、この水は利用されておらず、いつも水をたたえています。いまごろの季節ですと鏡のような水面に新緑をあざやかに映して美しい限り。コイ、フナ、メダカ、ミズスマシ、ゲソゴロー、ヤゴなど池の主たちがのどかに生息しており、ときおりピチャピチャと水をはねる音が聞こえるほか、周囲の林からはうぐいすなど野鳥の音がみごとに澄んで聞こえてきます。こんな所にこんな美しい所が... と思わせる風景です。

改善されたい白滝橋 // せまくて危険 //

声：現在、柴から白滝の加屋を結ぶ白滝川に架橋してある通称白滝橋は架橋されてから二十数年もたっており、橋幅は狭く、車がやっと通れる程度のうえ、人や自転車、オートバイ、トラックなどが通り、危険で事故を起す原因にもなりかねません。この機会に橋幅を広げるか人道橋を横に作るかしてください。

... 柴山間の住民 ... 一女子高校生

お答え：白滝橋と柿原橋は通称もぐり橋といって普通の橋とは違い、洪水時には流水面下に橋自体がもぐりようになっているので、そのため水の抵抗を少なくするようタマゴ型にできています。この橋は町民のみならず二十数年の風雪に耐えてきました。最近ようやく足元に若干の洗掘がみられ、現在、建設課での補強策を検討しています。ご要望の拡幅については構造および荷重制限上、取付けが不可能なため歩道橋の新設しか考えられませんが、今後の橋はすべて洪水位より少なくとも一・五尺橋げたを上げなければ架設できないことになっていくため、この橋への歩道橋添加は建設省の許可が得られませんが、また現在の両岸の県道と同じ程度の高さとするれば、取付け道路を含めて巨額の工事費を必要とし、さっそく実施するというようなことは不可能です。

しかし、県道沖浦〜大洲線の改良が進むにつれ、将来は現在の大洲〜長浜線との連絡道路として新設整備されるものと考えられます。

公害草〃セイタカアワダチ〃

町内にも繁殖

6・9月が撲滅のチャンス



この月か
今11月
は月セ
下10の
写真は
写上の
ア

いま、町では県と共に恐ろしい有害草である「セイタカアワダチソウ」や「ブタクサ」の駆除を推進しています。

これらの雑草は、アメリカから入ってきたものすごい勢いで全国に広がっています。
おもに生育している所は、堤防周辺、河川敷、工場敷地の予定地、宅地造成地、道路周辺、畑地、休耕地、鉄道沿線など、放任した

セイタカアワダチとは

cm
200
150
100
50

- キク科に属する多年生植物で草丈が1.5～2.0mにもなる背の高い雑草です。
- 成長期間は4月～10月。花期は10月～11月で、茎の先に多数の黄色い花が穂状に咲き群生します。
- 種子と地下茎の両方で繁殖し、適当な日照と荒地があれば、どこにでも生育します。
- 照と種子は1株に数千個の種子がつき、風によって飛散し繁殖します。
- 地下茎は親株を中心に約1mの範囲に伸び、深さは5cm以内の浅い所に分布しています。

4 5 6 7 8 9 10 11月

発芽 開花

駆除対策

- 地上部の刈り取り
- 株(根)の抜き取り
- 焼却

(開花前)

- 地上部の刈り取り
- 焼却

がみつかりました。ただし、ブタクサは目立ちにくいこともあってかこれまでのところ発見されていません。

セイタカアワダチソウは、非常に繁殖力がおう盛で、野草を絶やしてしまふほか、ぜんそくや血膜炎、鼻炎などをひきおこす花粉病の原因となる恐れがあるといわれている公害草です。

そこで、これらの公害草をみつけたら、土がやわらかい六月(つゆ期)のうちに地上部の刈り取りと株の抜き取りをして焼却、さらに第二弾として開花前の九月ころ抜き取り残しの根から出た芽をもう一度刈り取って焼却するようにしてください。

できれば、地域ぐるみや組織ぐるみでの撲滅作戦が効果的ですので、公民館活動や区活動の一つに盛り込んで取り組んでいただきたいものです。町でも、公共施設周辺は町職員の手で駆除することにしています。

「役場」という所、あなたも一度くらいは足を運ばれたことがおありと思いますが、そのときの役場内、職員の態度などの印象、お気付きの点などお聞かせくださいませんか。...

その結果、二十人のうち四人の方から、職員はもう少し笑顔で接してほしい、たとえささいなことでも親切に対応してほしい、もっと仕事に情熱をもって臨んでほしい、職員の数はあれほど必要なのかーなどのご意見があったほかはいずれの方からも、昔のような、いわゆる〃お役所〃という印象はなく、ほとんど抵抗なく入る。

なお、写真でござらぬいただいてもどんな草かわからない人も多いと思われまますので、役場本庁と各連絡所に鉢植えの見本を置いていただきますので、わからない方、知らない方はぜひ一度ごらんください。みつつけしだい駆除してください。

忘れないでネ

児童手当の現況届

児童手当を受けている方は、毎年六月一日から六月三十日までの間に「児童手当現況届」を役場に出さなければならぬことになっています。

この届は、手当を受けている方の前年の所得の状況、養育の状況、および勤め先の状況などを確認し、ことしの六月から引き継いで児童手当を受けることができるかどうかをみるための大切な届です。すから必ず出してください。

は、ここで一口に説明することは不可能ですが、福祉の充実が叫ばれる社会情勢からして、現在数の職員をもってしても、どの職員も毎日多忙な勤務をしています。

まずまず? 「町議員の印象」インタビュー結果

利用されお聞かせください。ところで、先の四人の方のご意見については、その旨を主管課長に伝え、職員に周知徹底しました。

また、職員の数の問題について

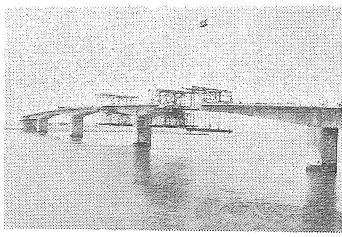
行政相談委員に

宮本さん再任

宮本幹之進さん(七二・長浜二十区)が、行政相談委員にこの四月一日付で再任されました。

行政相談委員は、国の行政運営に関する苦情を受け、それに対し助言、あるいは関係行政機関に連絡して解決をはかることがおもしろいこと。

この制度は昭和三十六年に設けられ、委員は行政管理局長官から委嘱され、任期は二年。宮本さんは昭和四十一年に初めて同委員に委嘱され、いろいろ再任を重ね、今年度は十年目。



橋らしくなりましたよ! 一新長浜大橋 (5月10日写す)

成果たたえ努力誓う

長浜町合併20周年記念行事

△ 旧長浜町と喜多灘、櫛生、出海、大和、白滝の旧五村が合併して誕生した新長浜町が、ことし一月一日で満二十年を迎えたのに伴い、町では合併以後町行政に関係ある機関や団体の代表者と合併十周年以後の自治功労者合わせて約四百人を招いて、この二十年の歩みを祝福し今後の発展を期するため、四月十六日(水)午前十時から長浜高校体育館で「長浜町合併二十周年記念祝賀式」を行った。また、同日午後からは、祝賀行事の一つとして、町体育館を会場に「しろうとのど自慢コンクール」や「産業別団体歌の競演」など誰もが参加できる記念の演芸行事で終日に終わった。

8人を表彰 1団体135人に感謝状

△ 祝賀式 △

祝賀式典は、まず、出席者全員が君が代斉唱で始まり、次いで、菊地町長が「前期十年間は、合併後の新態勢の確立とひびくした町財政の建て直しに全力がそがれたが、後期十年間は、新町の諸体制勢もほとんど定まり、長浜町の歴史を大きく変えるほど臨海工業開発を軸として各種公共施設の整備などが急速に促進された時代であった。これは、雌伏前期十年間に蓄積された力が後期十年に及び、過去の三十年、五十年にもまさって躍進発展したと見ることができる。初代の末永町長、二代目

の西田町長の功績をはじめ町内すみずみに至る町民各位の理解と協力の総結集があったことによるもので深く銘記し感謝をささげ、その努力の跡をたどって範とする



表彰、感謝状を受けた者を代表して謝辞を述べる東豊さん



20年の歩みを祝福し今後の努力を誓い合っけてバンザイを三唱する式出席者

ともに、さらに次の世代への門出の日として大いなる希望とその達成への努力の誓いを町民こそぞって

52人がのど競う

盛大に歌の競演

記念演芸

特別な招待者の出席で行った式典と違って記念演芸の部は誰もが参加できるみんなの催し。雨天がたたってかやや観覧者の出足は遅れたものの、開演約二十分後には会場いっぱいの人となった。

第一部の「しろうとのど自慢コンクール」はNHK四国本部のベテラン海野アナウンサーの司会と地元バンド「ニューポート」の皆さんの快よいリードで、十八人のど自慢たちが思い切り自慢ののどを競い合った。いずれおらぬの

思い出のスナップ



松本春明さん (豊茂)



渡辺スミエさん (下須戒)



田淵弥五郎さん (長浜)



門田房信さん (仁久)



農協チームの後藤アイ子さん
顔負けの凝った衣装で熱演、アンコールに呼ばれて再度舞台上で歌いまくるヤング、さらには踊り手を立てて



第2部を審査する右から富田運夫、池田英則さん、審査員として出場者もこれら。中には、わざわざ出場に備えてスタ



第1部司会のNHK海野アナ
出場よりは年輪的に若さがあつたことわが産業、職場を背に受けての出場だけあつてか、のど自慢コンクールを優るともおらぬ大盛況。花東やテープはたまた「△△ガンバレ」と書いた横断幕まで登場しての応援合戦

ど自慢にその道のベテラン審査員陣も聴き耳立てて慎重審査。結局歌のムードをよく捕えた豊茂の松本春明さん(二六)が最優秀賞にまた、今坊の中見亀男さんから五人が優秀賞に輝いた。

また、第二部「産業別団体歌の競演」は、アマチュアとはいえず校時代から経験深い長浜の増田健三さん(三五)を司会に、農協、官公庁、森林組合、商工会、晴海団地企業自治会、漁協の各四人ずつの六チームが競演。しろうとの

合併20周年祝う

これら祝賀行事のほか、町ではこの喜びを共に祝い、これまでの町発展の尽力に対する感謝のしるしとして、長浜町合併20周年記念として、湯飲みを町内各戸に、また、式典招待者には書類入カバン、表彰および感謝状を受けた方には花びんを、それぞれ一個ずつ贈って記念のしるしとした。これら祝賀行事に使った費用はしめて三百七万円。社会情勢、地方財政事情を考慮して、少しでも安く上げるようにと、準備および開催日を平日にして町職員をこれに当たらせるなどの配慮をしたため、実費は予算の三百万円をややオーバーしたに留めることができ

この祝賀式典、行事が豊かな長浜町づくりのふんばりになってほしいと願ってやまない。

表彰された人、感謝状を受けた人は次の通り。

特別表彰者
 【特別自治功労者】西田司(下須戒) 後藤熊市(今坊) 東豊(白滝) 一宮龜久雄(白滝) 松田弥生(長浜) 戒忠男(長浜) 明関定市(長浜) 宮本幹之進(長浜)

特別感謝状贈呈団体
 長浜町漁業協同組合

感謝状贈呈者
 【合併10周年以後の前理事者】西田司(下須戒) 清水憲(櫛生) 大野豊(長浜) 【合併10周年以後の議長(議長)】後藤熊市(今坊) 村本武則(出海) 一宮泰忠(戒川) 二宮義徳(沖浦) 池田登(長浜) 【合併以後の選挙に当選した議会議員・農業委員で十年以上在職した人】▽議会議員 東豊(白滝) 一宮龜久雄(白滝) 後藤熊市(今坊) 二宮金之助(長浜) 渡辺仁之助(櫛生) 紙本徳之助(青島) 本田重太郎(出海) 小西豊己(豊茂) 津田利広(今坊) 山下清雄(上老松) 浦田定(長浜) △農業委員 大本春

明(豊茂) 龜井幸(青島) 竹内明登(戒川) 東豊(白滝) 山下清雄(上老松) 河澄萬四郎(出海) 小西豊己(豊茂) 三秋俊雄(柴) 西岡勝(須沢) 【合併以後の議会の選挙または同意を得て選任された委員で十年以上在職した人】▽教育委員 川菊地敏行(長浜) 河井八十一(出海) 大田龜三郎(長浜) △農業共済事業運営協議会委員 二宮重憲(穂穂) 大野高吉(今坊) △農業共済損害評価会委員 平井豊秋(白滝) 泉猶平(柴) 大成淳(豊茂) 龜井幸(青島) 西岡淳夫(今坊) 加納徳利(上老松) 【合併以後特別職の委員で十年以上在職した人】▽学校医・学校薬剤師 川菊地敏行(長浜) 辻良清(同) 岡田岩夫(同) 石村恭一(同) 山崎清明(同) 浦上富雄(同) 山本家定(同) 米川清三(同) 柴中カメ子(同) 村上滋則(同) 城戸龍郎(天洲) 岡本正規(同) △公民館長 川松田忠重(規) 増田龜師(櫛生) △文化財専門委員 西岡通福(白滝) 龜田四郎(豊茂) △

区長 川村松忠衛(長浜) 高崎庄之助(同) 藤沢沢馬(同) 矢間沢衛(今坊) 二宮留雄(長浜) 渡辺繁(同) 明関定市(同) 頼永啓文(同) 城戸岡政雄(同) 西村護(同) 新山月津(同) 上田一(同) 石住卯一(同) 中野茂明(同) 立脇字之助(青島) 伊藤仙三郎(同) 峯脇藤一郎(櫛生) 山本政雄(豊茂) 門田一二(白滝) 福村禪教(同) △民生委員 松本作次郎(長浜) 深井満子(今坊) 藤井ミサヲ(出海) 本田信子(同) 宇都宮吉幸(豊茂) 東富幾子(下須戒) 滝内昇(白滝) 大野快真(戒川) 窪美恵子(柴) △衛生協力員 川上田キミ子(長浜) 境良恵(同) 衣笠政子(同) 武田猛子(黒田) 城ヶ滝シゲ子(沖浦) 山本ハツ子(豊茂) 【勤続二十五年以上で在職している消防団員】二宮義徳(沖浦) 津田忠士(今坊) 久保一光(沖浦) 立脇字之助(青島) 東春秀(今坊) 清水棟(櫛生) 和田永吉(出海) 北岡務(豊茂) 久保正甫(黒田) 曾根保

(白滝) 鎌田博郷(長浜) 小西善幸(黒田) 増田大洋(櫛生) 久保正吉(上老松) 山本喜三郎(豊茂) 石堂栄久(戒川) 上田清己(長浜) 西村兼夫(沖浦) 沖江良二(同) 魚見栄一(今坊) 兵頭正夫(櫛生) 尾野幸太郎(出海) 西村利秋(上老松) 松本年久(豊茂) 松本筆夫(同) 松本正夫(戒川) 坂田平六(白滝) 兵頭良範(櫛生) 【合併10周年以後勤続二十五年以上で退職した本町職員】酒井親(櫛生) 丸山米三郎(長浜) 大野豊盛(櫛生) 土居孝重(柴) 【勤続二十五年以上で在職している本町職員】増田晴茂、兵頭信男、森議、坂井弥八郎、槇尾多喜夫、酒井義馬、上川万敏、平井源一、河野平吉、池田昭夫、真鍋典秋、友沢敏、高橋亮、池田又一郎、宇都宮寛、小石玉子、清水文子、藤岡勝子、仙波久枝、槇尾ハツ子、山下朝子。



記念品に「湯飲み」

演壇(中央)は、式辞を述べる菊地町長

新たにしたいと念じ、その記念の式典を催した」と式辞を述べた。次いで池田町議会議長がいさつ。出席者と町住民に対し、現在の長浜町を築いた功績とその努力をたたえ「今後さらに町当局と表裏一体となって福祉の向上と町発展のために自身の努力を払い」と議会としての意を述べた。このあと、十周年以後で特別の自治功労があった八人を表彰、一団百三十五人に感謝状を贈り功績をたたえた。(表彰者、感謝状を受けた人は後記の通り)

また県知事(代理)、県議会議長、郡町村会長、郡町村議会議長

会長、西田前町長から、町の発展をめざし続けている町民の努力と実績を称賛する祝辞があり、最後に東豊さん(白滝)が表彰された者、感謝状を受けた者を代表して「この記念すべき式典で表彰の栄に浴したことは終生忘れ得ぬ喜びであり、さらに残る人生を町のためにあらゆる角度から協力したい」と謝辞を述べ、一同パンザイを三唱し式典の幕を閉じた。

このあと、町体育館を会場に祝宴が午後二時まで行われ、午後三時からの記念演芸に引き継いだ。



森林組合チームの宇都宮辰生さん



官公庁チームの鈴木佳代子さん



靖海自衛隊チームの犬飼善蔵さん



商工会チームの高沢宗一さん



漁協チームの二宮寧さん



商工会チームの高沢宗一さん

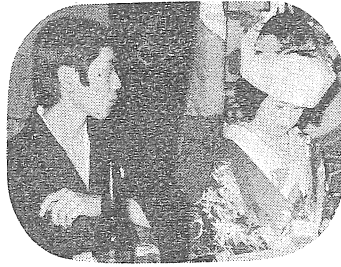
歌う人など、バラエティーに富んだにぎやかで楽しいショーとなり、審査員も審査を忘れて見とれていて、コマもあった。が結果は、いわゆる粒ぞろいという感じの農協チームが実力を発揮して優勝した。

また、民謡クラブの皆さんの踊りもあり、演芸の部をより一層盛り上げた。

千円会費の結婚披露宴

山口さんカップル なかなかの好評

大和公民館



第1号を挙げた山口博・加志子さんのカップル

楽しく住みよい郷土づくりを目標に、冠婚葬祭などの生活改善運動を推進している相生地区で、地元・大和公民館方式による初めての千円会費結婚披露宴（実際は、この方式ができるまでに記念品を

買ったため千五百円となった）が、天皇誕生日の四月二十九日に同公民館で行われた。
この千円会費披露宴は、最近とくに派手になる一方の結婚式や披露宴に、各方面から悩みの声がかかることから、当事者、招待される者の立場に立って少しでも不要な経費を省くことに重点をおき改善、祝宴の料理を写真のように「皿盛り」と「飲み物」だけとし形式的と思われる引出物や記念品を廃止したもので、地元・大和公民館が他地区に先がけて実践に踏み切ったもの。同公民館では四月七日、運営委員会を開いて検討した結果、この方式を今後、同公民館方式の披露宴としてスタートさせることになった。

中でも、千円という会費で満足な料理ができるのかということに悩みがあつたそうだが、結局、お皿やハンなど料理のそのもの以外は全部公民館で構え、会費を正味全額料理と飲み物に当てることにし、業者に見本を作らせるなどして吟味した結果だということである。
千円会費結婚披露宴第一号を挙げたのは下須戒の山口博・加志子さんのカップル。広報係がこの披露宴に出席された一部の方々にインタビューしたところでは親族、招待された人を問わず、若い人にもお年寄りにもなかなかの好評、「気軽に出席できるし、料理もあれで十分、ムダな金を使わなくてもいいんじゃないですか」「お金をかけてきょうのよいお宴があるが、きょうのようにお互いがお金をかけなくてもプログラムの中味しだいであるに楽しく盛大にやれるんですからねエ」などの好評がほとんどだった。



話 最初は会場だけお借りするつもりだったんですがね、今回の会費制を知り将来のことなど考えた

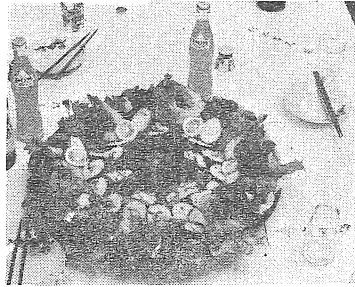
結果、利用させてもらった。実際きょう出された料理も結構だったし、雰囲気も大変よかったです。これで十分だと喜んでおります。できれば、これが一つの先達役になって、大和公民館形式があとに続くことを願っています。

藤岡公民館長、上田主宰の語
簡素化第一号で、まず山口、高岡さんの深いご理解に感謝しています。年々派手になりつつある結婚式をこのあたりでなんとか控え、記念品や引出物など廃止しムダをなくして今後もこのスタイルを継続していきたいと思っています。この点、当事者はもちろんですが地域住民の厚いご協力も当然必要なので、さらに強力なご支援をお願いしたい。

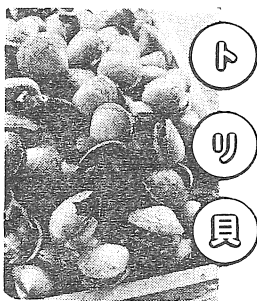
会長に玉川さん

連合婦人会総会開く

四月七日、町体育館で五十年度高浜町連合婦人会の定期総会が開かれ、六十人が出席し事業計画審議や役員改選を行った。
まず四十九年度の事業計画、収



6人1皿の料理はごろんの通り。このほかに飲み物も千円会費のうちに含まれる



トリ貝

今坊沖に異常繁殖!!

なんと1日13トン

トリ貝の身は、鵜の首の部分の形をした頭部が薄黒い色をした貝。おもにニギリ寿しのネタとして使われる高級貝とかで、

喜多灘の沖に「トリ貝」が異常繁殖。いま、同地区の漁港は連日地域住民約百人が出てこの水揚げに大わらわ、二度と見られないような活気に満ちている。その水揚げも一日平均十三トン、金額にして七百万円におよぶというから、どうにも笑いが止まらぬとはこのこと。

漁民ホクホク

連日総出で水揚げ

日本では九州の有明海が本場。長浜町近辺でも、これまでも少しは生息していて、わずかばかりの水揚げはあつたそうだが、この最



にぎわう今坊漁港。キャリーを運ぶ婦人らの表情は明かるい。

近、砂利業者が砂利を取つたあとに異常繁殖したらしく、この三月二十三日に同地区のモグリさんが発見、信じられないほど驚いたという。それらしい関係地区漁民が総出しても休む暇もないほど連日水揚げが続いているが取っても取っても繁殖、この分だと九月ころ

支決算を報告、続いて五十年年度の基本方針・活動目標として①明るい家庭と社会づくり②に努める③集団検診の推進、体力づくり④会員の三世代の交流⑤恵まれない人たちの慰問、虚礼廃止⑥暮らしを見直す運動、節約運動の推進などを確認した。さらに五十年度の事業計画、予算を決め、最後に役員改選

(任期は二年)を行なった結果、次の通り決まった。
会長 玉川喜久子(喜多灘)、副会長 山口美千子(長浜)、久保多寿子(豊茂)、書記 水沼理子(櫛生)、会計 池田容子(出海)、監事 徳田千恵子(戒川) 平井松子(白滝)、笹田時枝(沖浦)



夫人とともに、みごとに開いた洋ランを鑑賞する味村さん(右)
—自宅のランハウスで—

ホホー！！

「中でも洋ランは華麗で格段の美しさがあり、しかも異国性があった」

「明治の時代なら貴族の家くらい。長浜町内でも昭和の初めでも姿が見られなかったねエ」

「自分は長浜人持ち前の性格、新しいものがりや、珍しものがりやの上に『いかもの食い』なので、このようなものに食いついてしまっている(笑)」

「作りにくくても、人が作らないものを作るところにも魅力があるね」

「商売でないためか、話は純粋に出てくる。」

趣味とはいえず、これまでどのくらいお金をかけたかわからないというだけあって、約四十三平方メートルの裏庭には二つのランハウスが設備され、その内外には洋ラン、日本ラン、万年青(おもと)と、種類分けされた鉢植えがビッシリ並び積まれているほか、二階のベランダ約三十平方メートルランでいっ

格段の美に魅かれ挑戦

ラン作 41年 味村実さん (長浜 64歳)

「中でも洋ランは華麗で格段の美しさがあり、しかも異国性があった」

「主人の生きがい」「ランを注文するときの夫の目は、まさにランランと光ってますネ」とは奥さんのトシ子さん(六二)。夫婦二体の趣味でもあるようだ。

「今のうちに、よいテキストがあれば、あんなもったいないことをしなくてもすんだらうけどネ」と話す今の味村さんは、もうテキスト不要のラン大家といっても過言ではないそうだ。

昭和二十八年、二十三歳のとき大阪の阪急デパートのショールームに、まるで宝物のようにガラスの箱に入っていた洋ランを見て、おもしろい身震いするほど感動したというのが味村さんとランとの初めての出会い。

しかし、自分の月給が五十五円だった当時、ラン一株が平均物で

五円から十円、よい物だと何十円何百円もしたそうで、とうてい手が出せるしろものではなく、また買って育て方がわからないため長期戦の構えで金をためる一方、相山(すざやま)というランの大家との交わりをつくるなどしてラン作りを勉強したという。

統計

49年度の結婚 おくやみ

<結婚>	4.62日に 1組
<おくやみ>	2.68日に 1人

貝は今坊浜沖周辺約三百ほどが目と鼻の先で採れ、いくつものキヤリーに貝を満載した船が沿岸壁に着くと、これを待ち構えた主婦を中心とした運び手が次々に陸揚げしリヤカーや、このためにわざわざ取り付けたモノレールで港たもとの作業場へ運ぶ。作業場ではハカリが待ち受け、計り終わるなり、すでに入り口でトラックを連らねて待ち受ける山口県や広島県、九州などからの業者がキロ当り五百五十円で次々運び込んで買い取ってゆく。ここでは、まさに不況どこ吹く風というカンジ。



運び込まれるなりハカリへ。表には業者がトラックを運んで待っている。

まとめかけている買付け業者の話では、砂利を採取すると、砂土がやわらかくなるとともに、砂土中に含まれている炭酸ガスが発散して有効成分(微生物)が発生し貝が息をするのに最もよい条件となって異常繁殖する例が多く、地上の土地を耕すのと同じ効果があるようだ。また、同地区漁業組合の人は、砂利を採ったことが幸いしたと喜び合っている。

寄付

○長浜二十四区の広田高太郎さん(六三)：「社会福祉事業に使用してください」と現金一万円を長浜町社会福祉協議会へ
○豊茂小学校百周年記念実行委員会：18型カラーテレビ七台とエレクトーン一台を豊茂小学校へ

××訂正××
お手数ですが
ご訂正ください

本紙三月号五ページ「三十八年一月十一日町議会議員選挙」は日付が「一月二十一日」、五月号六ページ上から二段「国保税率も改正」という欄中「八均等割V五千円(三千円)とあるのは、()内の改正前額が「三千八百円」、五ページ中央の「十六億八千八百七十九千円」とある見出しは「十六億八千八百七十九千円」の誤りにつき、それぞれ訂正しておわびします。

